

それが世界の戦いなら、リスクのない戦いなんかない！

第一関門の共通テスト試験を終えて、皆さんの戦いは次のステージへ突入しました。この時点（1/29）で二次試験まであと27日です。

自己採点后にどうしても気になるのは表情が冴えない生徒です。「どうだった？」と聞くと、その子の目から一気に涙が溢れ出してくる、こらえていたものが抑えきれなくなってくる、そんな子が必ずいます。過去には泣きながら自己採点をしていた生徒もいましたし、普段通りに見えても、話を聞くと「心が折れそうになるほどショックだった」という生徒も毎年必ずいます。

考えてみれば、共通テストで「思い通りの結果だった」とはっきり断言できる人って一体何人いるのでしょうか？ おそらくほとんどの人が、（程度の差はあっても）結果に不満や悔い、不足感を抱いているのではないのでしょうか。つまり、二次試験は誰にとっても「逆境からのスタート」なのです。この「逆境」を乗り越え前に進むこと、今の我々にできることはそれしかありません。難しいことかもしれませんが、皆さん、前を見ましよう。みんなの進むべき道は前にしかないのです。目線を下げていると、進めるはずの道も見えなくなります。険しい道ならなおさら進めません。人間界を見下ろす仙人のような心境で、悠々と二次試験を迎えることができる人なんていませんし、いるとしたらそれは何かの勘違いをしている人です。

A、B判定で気が緩んでいる人！ もしあなたが判定に慢心して不合格になっても判定した会社は何の責任も取りませんよ。合否判定はその人が受験までに力を落とさないことを前提としていますが、もし、あなたが無為に受験までの日々を過ごし、ライバルが努力を続けるなら、あなたの力は相対的に落ちていきます。

みんなここまで苦しかったかもしれないけれど、今年もよくがんばりました。自己ベストの人も、なんとか切り抜けたという人も、涙が出るほど悔しい結果の人も、大学入試はまだ第一関門を通過しただけ。皆さんの前に道はずっと続いています。人生も受験もこれからです。

そして、これから次の戦いを迎える以上、安全や安心の二文字はありません。戦いにはリスクはつきものですから。リスクや逆境としっかり向き合って、自分の道を進んでいきましょう。

大学入学共通テスト試験結果(各科目平均点と合計)

☆ 割愛しました

* 本校得点は本年度・昨年度ともに自己採点による（得点修正前のもの）。

* 全国得点について。

「合計」は本年度・昨年度ともに河合塾推定値

「本年度各科目平均点」は入試センターの中間発表点（1/22・得点修正後）

「昨年度各科目平均点」は入試センターの発表点（英語は100点満点に置き換え）

今年は平均点こそ上がりましたが、どの高校、予備校も危機感をもっています。だからこそ、成功に浮かれていたり、失敗に落ち込んでいたりする時間をもったくない。動きだしましょう！ ほっとするのは2次試験が終わってからです。「ここからもうひと踏ん張り出来る人」であれば、結果はどうであれ、必ず「悔いのない」春を迎えることが出来ます。「受験は人を伸ばす」ことを皆さんが行動で示してくれることを期待しています。先生方も全力でサポートしますよ。

これからの日程（2月～3月）

- 2月 1日（月） ＊面接、小論担当者連絡、挨拶（該当者は出校すること）
5日（金） ＊国公立大出願締切
8日（月） ＊登校日（定刻にSHRあり。机やロッカーは空にする）
9日（火） ＊理数科推薦入試（理科棟は立入禁止。近づかないこと）
15日（月） ＊登校日（定刻）
22日（月） ＊登校日（定刻）
25日（木）～ 国公立大前期日程試験
- 3月 1日（月） ＊卒業証書授与式（予定）
3月 3日（水）～ 10日（水）まで

【前期国公立大合格発表】（国立大は6日から）

- 合格発表は必ず大学の公式発表で確認し、すぐに合否を学校（はらはらと心を痛めている担任）に連絡する。ただし、自分が合格したからといって、友人に「どうだった？」と無遠慮に電話をかけるのは慎もう。残念ながら不合格の場合は、気持ちを切り替え後期試験に全力投球。
- 合格者は期日までに入学手続きを完了する。書類は大学へ直接取りに行くのか、郵送なのか（DLなのか）、募集要項できちんと確認しておこう。
- 前期入学手続き完了者は、後期・中期日程の合格者とはならない。

- 3月 5日（金） ＊午後 学力検査（高校入試）準備
8日（月）～ ＊国公立大中期日程試験
9日（火） ＊学力検査『終日登校不可』
12日（金）～ ＊国公立大後期日程試験

3月20日（土）～ 23日（火）まで

【中期・後期国公立大合格発表】

- 学校への合否連絡・入学手続きの完了。
受験結果すべてと最終進学先（予備校含む）を担当に必ず報告する。

3月28日（日）～ 追加合格者連絡、欠員募集開始（～3/31）。

- 28日中は大学からの電話連絡に対応できるようにしておくこと。
もし追加合格の電話があっても出なかった場合、不合格が確定します。

入学手続き等で「共通テスト受験票」も必要です！

慢心せず、油断せず、諦めず、合格への準備をせよ

- ① 2次試験は「思い」の戦い。合格への強い思いを持ち続ける者は逆転ゾーンまで力を伸ばす努力／準備ができるし、共通テストの判定に慢心／喪心して戦意を失えば、みるみる力を落とす。私大合格に溺れて第一志望を忘れるな、投げるな。慢心と油断と諦めが未来の悔いを作ると肝に銘じておこう。
- ② 学校での登校学習で生活のリズムをキープ。特別課外は積極的に利用する。頑張っている仲間と共にいることが一番の刺激／励みになる。質問も遠慮せず積極的に。ただし教えてもらった問題は、必ず自分の力でもう一度解く。二度解き、三度解き、「自力で」解ける力を身につける。赤本は5～10年分を覚えるくらい徹底的にやりこもう。復習のポイントが必ず見えてくる。
- ③ 2次試験に満点はいらない。昨年の合格最低点を参考に目標得点を見定め、合格への戦略を考える。4問中2問の完答が数学で必要なら、2問完答をめざせる解答力、問題を見極める力をつける。英語や国語の最後の1週間は、試験時間内に問題を処理し、解答に空白を作らない訓練を意識的にする。明らかな出題傾向があれば、その分野を徹底的に鍛える。敵を知り、己を知ることが「自信」の秘訣。「合格」への準備ができる賢い受験生になろう。
- ④ 前期から小論文や面接のある人はじっくり対策をとる。後期に必要な人はもちろん前期試験が終わり次第準備に入る。小論文は必要な教養・知識を身につけながら、実際に書くことが最も大切。知識の引き出しもなく、練習もせず、それでも本番だけは限られた時間内にすごい小論文が書ける、なんてことが世の中にありましようか？ 面接も「国公立大学面接資料」が進路資料室・職員室にあるので、聞かれそうな内容を前もって文章化し、堂々と答えられるようにしておこう。小論文も面接も「指導申込票」を必ず出しておくこと。
- ⑤ 予備校に行きさえすれば来年は合格、なんて安易に思わない。来年の合格は今年の4月までにどれだけ苦手を克服し、本物の学力をつけられるかで決まる。春に頭二つ抜け出るためにも、まずは今年の入試に全力を尽くせ。

学生割引証(学割)の交付について

- 有効期限3月31日、「東は広島・西は博多」以遠で利用可能。
- 「旅行許可願」を担任から受け取り、必要事項(学生証番号まで)を記入して担任に提出。1～2日後、本人が直接事務室で受け取る(学生証を必ず持参)。
- 学割を含め、事務室が関わる書類は即日発行できません。気を付けましょう。